1部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング　情報ブック2015』にてご確認ください。

・ｐ．４～５→学年暦

・ｐ．14～17→通信教育部カレンダー

・ｐ．42～44→社会福祉士　演習・実習科目関連締切等

・ｐ．45～48→精神保健福祉士　演習・実習科目関連締切等

８／５～９／24の追加・変更点

●「科学的な見方・考え方」のスクーリング申込締切日

開講日程が10／16～18に変更になったことから９／10（秋期スクーリングⅠ締切日）に早まっています。

社会福祉学科

教員 MESSAGE

「私」の不思議

講師　横山 英史

皆さんのレポートを読んでいると，様々な声が聞こえてきます。それは，いくつかの特徴や傾向を示しながら，ある方向へ流れていき，時代の空気の微妙な変化を教えてくれるのです。

たくさんの「私」

ところで，私たちが，これこそ自分だと考えている「私」，「自己」とは何でしょうか。たとえば，認知科学では，人の心は完全に制御可能な統一体ではなく，「自分はもう一人の他人である」という知見を得ています。[1)]

また，H. ヘッセは，人間の真実を，美しい言葉で表現しています。

「人間は，百もの皮からできている玉ねぎである。たくさんの糸からできている織物である」。[2)]

人は，生まれ育つ過程で，「百もの皮」や「たくさんの糸」をもった様々な人々と出会い，その複雑さや多彩な色を，自らの内に取り込んでいきます。そうして，「自己」という，かろうじて統合を保った心の体系をつくり，様々な場面で求められる役割に応じて，自分の中のどの要素を出せばよいか，合理的かつ柔軟に判断することができるようになっていくのです。それが，「自分とは何か」という感覚，自我同一性の確立を意味します。

つまり，「自分は一つ」という，私たちになじみ深い考え方は，「人間としての自己」を捉えるにはあまりに一面的であり，むしろ幻想に近いものとさえいえるでしょう。

大量消費される人間

しかし今，世の中は，人間の規格化に踏み切ったかのように思われてなりません。現代とは，生産性と効率性向上のため，型どおりのモノを大量に生産し，大量に売ることで経済的利益を得る資本主義社会です。人は生きものであり，そうした原理とは相容れないにもかかわらず，規格を決めて人間を型にはめ，好みやニーズを画一化し，経済的社会的利益につなげようとしているかのようです。それは，年齢，性別，性格，体型のみならず，思想や信条，言論にまで及んでいるのではないでしょうか。数々の矛盾や葛藤を内包する人間の最も深遠な部分が切り捨てられ，単色で「ベタ塗り」され，それが「自己」だと思い込まされて，時代の潮流を乱さない，扱いやすい規格品として消費されていくのです。その結果,「規格外」となった人間や，その心身の特性，言葉や行動，思想への風当たりは強くなり，市場に出せない生産物のようにはじかれてしまうこともあるでしょう。

また，一人一人の人間の「ベタ塗り」は，他者との関係にも影響を及ぼします。自分の中の，美しい花のような部分から，見るもおぞましい魑魅魍魎まで，すべてを受け入れられないにしても，自らの多面性を否定された人間は，苦しみと悲しみから，仕返しとして，我知らず，他者へも同じようにします。疎外し合い，排斥し合うことに，何の不思議もないといわなければならないでしょう。

「障害者」とは誰か

障害者と健常者との間に，明確な一線を引くことはできないと，皆さんのレポートへのコメントとして書いたことがあります。今日では，いったい誰が「障害者」なのか，より見えにくく，わかりにくくなっているよう

です。社会の中で，生きづらさや暮らしにくさを感じる人たちがいるとすれば，そうした人たちはすべて「障害者」だともいえます。あるいは，たとえ「うまくいっている」ように見える人でも，その人が「百もの皮」や「たくさんの糸」からなる「人間として」ではなく，主に経済的な意味で成功し，成果をあげている点においてのみ認められている可能性があるのです。そうした屈辱感や孤独感を，この時代に生きる人々はみな，心のどこかに抱えているのではないでしょうか。

今，私たちにできるのは，内奥から聞こえる，無数のささやき声を，すべて自分のものとして，そのままに聴くことではないでしょうか。いったいどれが本当の「私」か，わからなくなるほどたくさんの皮や，目が覚めるほど鮮やかで，多彩な色からできている，自らの心の不思議に，皆さんが「学び」を通して出会い，楽しむことができますよう，切に願うばかりです。

参考文献

1）下條伸輔　サブリミナル・マインド　中央公論新社　1996年
2）ヘルマン・ヘッセ　高橋健二訳　荒野のおおかみ　新潮社　1971年

スクーリング・アンケートより（１）

アンケートよりスクーリング講義の感想を抜粋いたしました。

●福祉心理学

・福祉心理学がまだ新しい学問であり，まだまだ成熟していない点について大変興味を持ちました。社会福祉学と心理学の基礎的なことと，それらを日常において応用して重ね合わせていくこと，心理学の奥深さを改めて実感しました。

・高齢者への考え方が変わりました。特性を理解して，言葉として伝えながら関わることの重要性に気づかされました。人生を維持し，乗り越えてきた対象に，上からものを言ったりすればうまくいかないのは当たり前であること。私事ですが，祖父を労われる孫でありたいです。

●カウンセリングⅠ

・感情を言語化するということの前に，言語化できる感情にはどのようなものがあるのかを考えさせられました。深みがある講義でした。感じること，伝えること，すり合わせることの大切さを改めて知れたことが楽しかったです。

・「カウンセリング」とは何か，自分がどのように学習に取り組むのかを考えることができました。また，日本のカウンセリングと臨床心理が混ざっていることや今後の潮流，考え決めるべきことへのアドバイスを教示していただき，よかったです。

・授業の最後の先生の「漠然とした内容に感じたかもしれませんが，それが授業のねらいでした」との言葉に，教科書に添うような講義とは違う，カウンセラーを実践として捉えながら，体験としての学びをさせていただいたこと，何度もグループワークをしたことの意味も理解し，深い授業を受けたことに気がつかされました。

●児童青年心理学

・自分の子育てを通して疑問であったり，困難だったりしたことを理解できたように思います。私からの色々なストレスやプレッシャーを受け入れ，跳ね除け，頑張って自立した自分の子どもたちに感謝し，親としての無知さを反省しました。私は本当に子どもに育ててもらったと感謝しています。

・講義中，事例として挙げてくださる映像が興味深く，先生の理論的なお話もメリハリがあってわかりやすい講義でした。「発達文脈主義」の考え方に触れられたのは，自らの青年期を振り返る意味でも，現代の青年たちを考えるうえでも有用で，スクーリングに来た甲斐があったと感じます。